

平成30年度(2018年度)

管理事業名	博物館事業				総合計画の 体系	第4章 第4節	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 多彩な文化が交流するまちづくり			
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	10	教育費	(項)	5	社会教育費	(目)	9	博物館費
部局名	地域教育部	予算執行所属		文化財保護課						
予算大事業名 施設管理事業 学芸事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名									
事業の目的と概要 ・地域の文化に関する歴史資料等を調査研究し、必要に応じて資料を収集・保管し、良好な状態で次世代に継承していきます。その成果をさまざまな展示や講演会等の普及活動、刊行物等により発信することで市民の生涯学習活動を支援し、地域の文化を発見、見直し、創造していきます。 ・市民が集い、多様な体験を活かしながら主体的に博物館活動に参加することで、さまざまな連携を深め、市民生活を豊かな潤いのあるものとします。										

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
博物館入館者数	人	31,663	34,448	43,332	博物館が主催、共催する事業の参加人数及び観覧者数
刊行物数	数	9	8	9	調査研究活動を公表する刊行物数
収蔵資料数	点	26,566	27,348	27,542	良好な状態で保管している館蔵資料の数
成果の説明	平成30年度は調査研究の成果をふまえ、市民参画や学校教育との連携なども視点に入れながら7回の特別展など関連イベントを数多く実施し、入館者は前年度比8,884人増の4万3,332人でした。また、刊行物として展示図録、博物館だより、博物館館報を刊行し、調査成果を発表するとともに、中学校の歴史学習教材を製作しました。館蔵資料については平成29年度に収蔵庫を増設し、良好な状態で保管しています。また、西村公朝作品を収蔵したことで収蔵品の充実を図れました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	761	656	753	96
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	1,004	361	449	88
経常収入 小計(a)	1,765	1,018	1,202	184
給与関係費	44,959	46,495	50,009	3,513
物件費	61,278	67,076	70,400	3,325
維持補修費	2,676	19,773	6,397	△13,377
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	823	691	703	12
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	55,416	57,340	57,340	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	2,472	2,506	3,265	759
退職手当引当金繰入額	1,997	1,866	9,596	7,730
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	169,620	195,748	197,710	1,962
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△167,855	△194,730	△196,508	△1,778
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	0	-	△0
固定資産除売却損	-	0	-	△0
その他	-	-	536	536
特別支出 小計(e)	-	0	536	536
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	△0	△536	△536
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△167,855	△194,730	△197,044	△2,314
一般財源充当額	142,194	138,184	132,836	△5,348
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△25,661	△56,546	△64,208	△7,662

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	有料観覧者の増加により博物館使用料(92千円)も増加しています。また、博物館特別利用料(4千円)も増加しています。
経常収入・その他	資料図録等有料頒布代(92千円)が増加しました。雇用保険料などで(4千円)が減少しました。
物件費	主に吹田市立博物館吸引式冷水機及び付帯設備更新工事設計業務(4,500千円)の委託料が増加しました。
維持補修費	吹田市立博物館3階床等改修工事(4,428千円)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	1,468	1,018	1,202	184
行政サービス活動支出	114,793	139,202	134,038	△5,164
行政サービス活動収支差額	△113,325	△138,184	△132,836	5,348
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	28,869	-	-	-
投資活動収支差額	△28,869	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△142,194	△138,184	△132,836	5,348
一般財源充当額	142,194	138,184	132,836	△5,348
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入)博物館使用料747千円、自動販売機設置手数料81千円、資料図録等有料頒布代343千円、自動販売機電気使用料15千円、雇用保険料本人負担分8千円、博物館特別利用料6千円、公衆電話使用料等2千円
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
入館者1人あたりのコスト	平成28年度	31,663 人	5,357 円	博物館入館者1人あたり、4,563円のコストがかかっています。単位あたりコストの減は、主に博物館施設の入館者が増加したことによるものです。
	平成29年度	34,448 人	5,682 円	
	平成30年度	43,332 人	4,563 円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	2,506	3,265	759
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	2,506	3,265	759
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	1,355,087	1,297,747	△57,340	その他流動負債	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	27,127	33,236	6,109
建物・工作物	1,355,087	1,297,747	△57,340	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	27,127	33,236	6,109
無形固定資産	297	297	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	29,633	36,501	6,868
建物・工作物	-	-	-	純資産	1,331,751	1,267,542	△64,208
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	-	-	-
重要物品	6,000	6,000	-	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	1,361,384	1,304,043	△57,340
資産の部合計	1,361,384	1,304,043	△57,340	負債及び純資産の部合計	1,361,384	1,304,043	△57,340

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

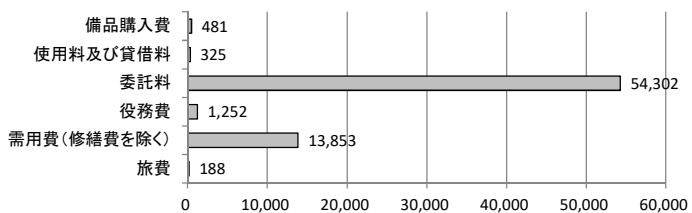
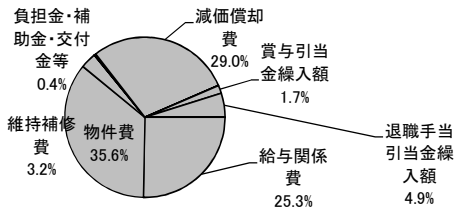
	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇用員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
事業従事人数	5人	2人	604日	13人	62,870
給与関係費等	51,455千円	6,592千円	4,688千円	134千円	
内、時間外勤務手当	2,615千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
事業用資産 建物・工作物	博物館の建物の減価償却による減(55,415千円) 付帯設備(中央監視設備)による減(1,925千円)
事業用資産 無形固定資産	電話加入権

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立博物館
取得年月日	平成4年(1992年)3月30日
建物・工作物の取得価額	2,797,819 千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,500,073 千円
利用料金収入	753 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率	0.1	0.7	0.2	△0.5
施設老朽化比率	49.5	51.6	53.6	2.0
受益者負担比率	0.4	0.3	0.4	0.1
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	99.0	99.3	99.1	△0.2
経常費用対公共資産比率	6.1	7.0	7.1	0.1

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【貸借対照表】

博物館事業は、1,297,747千円の固定資産を有しています。このうち、建物の老朽化比率は53.6%と、市保有施設全体の老朽化比率の56.2%を下回っていますが、昨年度とくらべて、2.0ポイント老朽化が進行しています。

【行政コスト計算書】

経常費用は197,710千円であり、最も大きいのは物件費の70,400千円、次に大きいのは減価償却費の57,340千円、次が給与関係費50,009千円となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

施設の老朽化比率は市全体からみれば低いものの、開館から25年以上が経過し建物に付随する電気、機械、空調設備の老朽化が進行しており、施設の機能を維持するために設備の更新、補修が必要になると見込まれます。そのため財政負担の平準化の視点からも計画的な補修計画が必要と考えています。

平成30年度については、空調機器設計業務、3階土間タイル漏水等対策工事を実施しました。また、年次計画であげられていた空調機設備更新工事について、令和2年度以降に実施します。